

# 研修企画書

---

斐 鎬洙 (ペホス)  
ミカタプラス  
MAIL : contact@en-coach.com

---

## 【タイトル】

### 「介護記録の書き方」きほんの“き”

## 【対象者】

- 申し送りや経過記録の書き方の基本を教わったことがなく、学びたい方
- 職員に記録の書き方を指導する方法を学びたい方

## 【受講で得られる主なメリット】

- 記録への苦手意識や不安を払拭できる
- 申し送りや記録の質が向上し、事故やトラブルを予防できるようになる
- 新人教育やスタッフ指導における教え方が学べる

## 【コンセプト（概要）】

「なぜ、介護記録を残す必要があるのか？」

介護記録は、▲利用者に適切なケアを提供できる、▲利用者の急変を早期に察知し対処できる、▲職員の観察力を育むことができる、▲訴訟問題を回避できる等、他にも多くの意義があります。こうした意義を、職員が理解しないままでは、記録は面倒なただの義務的な業務になってしまいます。

そして、これらの意義を理解していても、具体的な書き方がわからず、説明を聞かないと理解できない書き方をしている記録や、長い文章で記録をしている割には内容が薄い記録、重要な観察ポイントが抜け落ちている記録等が、散見されるケースも珍しくありません。

この研修では、記録の意義を理解するとともに、伝わる記録の書き方の基本を学び、介護記録の質を上げることができます。また、介護記録の書き方を教える立場にある人は、その教え方を学ぶことができます。

## 【所要時間】

基本 2 時間（60分～180分で調整可）

## 【講師料】

参加人数・時間により応相談

## 【内容】

### 1) 介護記録の書き方①①～記録のポイントを押さえる～

- ・ 記録をめぐる実際の状況
- ・ 「観察のバトン」をつなぐ記録
- ・ 記録簡略化のカギ
  - ▶ 記録の基準①「何を観察するか？」
  - ▶ 記録の基準②「どこまで記録するか？」

## 2) 介護記録の書き方②～記録の表現方法を増やす～

- ・記録を書くときの心構え
- ・読みやすい文章を組み立てる3つのコツ
- ・記録のまとめ方
- ・各ケア場面の記録で使える表現集
  - ▶食事場面 ▶入浴場面 ▶排泄場面 ▶体調急変時

## 3) 介護記録の書き方③～認知症ケアの記録の要点～

- ・認知症ケアの記録を書く時の心構え
- ・利用者の言動を記録する時の注意点
- ・「BPSD」として記録することの悪影響
- ・「BPSD」の記録の仕方
  - ▶「徘徊」 ▶「暴言・暴力」 ▶「介護拒否」 ▶「不穏」

### 【参加者の声】

- これまで、記録は面倒だと思っていましたが、書く意味を教わって、記録の重要性を理解できたので、しっかり書こうと思えました。 (介護施設介護職・30代)
- 先輩から記録の書き方を教えてもらいましたが、正直、自分の書き方が正しいのかどうかわからずにいました。何を観察し、どこまで記録するかも理解できましたし、具体的な書き方も教わったので、自信が持てそうです。 (介護支援専門員・50代)
- 自分は要点を押さえて書いてきましたが、うまく教えることができずに、ただ注意するばかりでした。今回、教え方がわかったのが一番の収穫です。 (介護主任・40代)

### 【研修実施の流れ】

- ①お問い合わせ
- ②お打ち合わせ (研修目標・内容・日時・講師料等の確認・合意)
- ③事前準備物の確認
- ④研修実施・アンケート回収
- ⑤請求・お支払い